

哲學研究

第三十九卷 第三册

第四百四十九號

昭和三十三年一月二十日發行

ギリシア人と歴史……………田中美知太郎

論理學研究の一課題……………上山春平

リチュールの價值判斷の問題性……………森田雄三郎

新着外國雜誌所載論文一覽

彙報

京都大學文學部內

京都哲學會

教育学部

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究会を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

武藤一雄	三宅剛	松尾義海	野田又夫	西谷啓治	長尾雅人	田中美知太郎	武内義範	高田三郎	園原太郎	島芳俊	重澤俊郎	酒井祐修	柿崎祐一	白井二尙	上野照夫	井島勉	石田仁	池田義祐	有賀鐵太郎
------	-----	------	------	------	------	--------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	-----	-----	------	-------

exion über sich und über seine Unmittelbarkeit zu bringen, und zeigt dasselbe—in seiner Beschränktheit auf-
 と共に其の「真」の der Gedanke として das Allgemeine として「真」
 Der Gedanke ist das Allgemeine, die Gattung, die nicht stirbt, die sich selbst gleichbleibt, s. 118
 から理解すべきであり、この否定的な普遍に對して、肯定原理としての普遍に「真」同じ「真」の
 Die Erkenntniß—die denkende Aufassung des Seins ist die Quelle u. Geburtsstätte einer neuen Gestalt und zwar
 einer höheren Gestalt.
 を讀むべきであらう。

(筆者 京都大學文學部〔西洋哲學史・古代〕教授)

前 號 目 次

天上地下を對置する	………	潮瀬	襄爾
他界觀念の成立	………		
幸福と人間の本質(完)	………	岸畑	豊
——メンタムの幸福の概念について(II)——	………		
キエルケゴールに於ける	………	安本	行進
宗教的實在	………		

新著外國雜誌所載論文二篇

らヘーマンに至る流れ、即ちいわゆるリチュル學派は近代神學史における迂回反動であつて、調期的神學とは云えないと批判して、(K. Barth, Die protestantische Theologie im 19. Jahrhundert, 2 Aufl. 1952, S. 272 ff, 274, 598)。正統主義として、この批判は當然のことであらう。しかし教濟論的立場或いは自然神學の問題論から見れば、リチュル及びリチュル學派と批判主義哲學との關係、また神學史における位置づけは、バルトとは異つた風に見られる。このことに關しては、精讀を参照。(4) アルトハウスもまた、リチュルの「交わり」が次の點を見落していることを指摘している。「われわれに對する神とは、神がわれわれを自分のために欲するということを意味する。邂逅の意味は人間中心ではなく、神中心である。それ故、單にわれわれに對する神の價値が問題であるだけでなく、われわれによつて認識され崇拜されることを欲する神が問題であり、したがつてその神性における神自身が問題である」(P. Althaus, Die christliche Wahrheit 3 Aufl. 1952, S. 240)。このアルトハウスの批判は正しい。

(筆者 京都大學文學部「基督教學」大學院學生)

次號論文預告

惡の問題と心身關係……………島 芳夫

リチュルの
價値判斷の問題性(完)……………森田雅三郎

クリスチヤン・ゾオルフの……………細川 董

——ゾオルフの研究、其の一——

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會等（編集事務以外は一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛に御送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十二年一月十五日印刷
昭和三十二年一月二十日發行

編 集 人

京 都 哲 學 會
京都大學文學部内

右 代 表 者

酒 井 修

發 行 人

八 坂 淺 太 郎
東京都千代田神田鹽河原四ノ四

印 刷 人

伊 藤 久 春
京都市田中西浦町四〇

印 刷 所

弘 文 堂 印 刷 所
京都市田中西浦町四〇

發 行 所

株 式 會 社

弘 文 堂

東京都千代田神田鹽河原四ノ四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價一二〇圓・郵税八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXIX

January, 1957

No. 3

The Greeks and History (I) Michitarô Tanaka

A Project for Unifying the Three

Types of Logical Theory Shumpei Ueyama

The Problem of Kantschian

Value-judgement (I) Yûzabrô Morita

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定
價
金
二
〇
圓

IBM 6427

和
三
十
二
年
一
月
二
十
五
日
印
刷
(
每
月
一
行
回
)